



第五次長野県環境基本計画

— 共に育み 未来につなぐ 豊かな自然と確かな暮らし —

長野県環境部環境政策課

詳しくは
長野県 HP へ
↓



長野県環境基本条例の規定に基づく、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本となる計画として、2023年3月に「第五次長野県環境基本計画」を策定しました。

計画期間を2023年度から2027年度までの5年間とし、基本目標として「共に育み 未来につなぐ 豊かな自然と確かな暮らし」を掲げ、パートナーシップにより、本県が誇る自然環境を次世代に引き継いでいくとともに、経済・社会・環境の統合的向上を図り、持続可能な社会の実現を目指します。

計画策定の1つ目のポイントとしては、同じく2023年3月に策定した本県の総合5か年計画である「しあわせ信州創造プラン3.0」や、長野県ゼロカーボン戦略及び長野県廃棄物処理計画(第5期)との整合を図り、地球温暖化を防ぐためにゼロカーボン施策を拡充するとともに、限られた資源を無駄なく有効活用するための循環経済(サーキュラーエコノミー)への転換に向けた施策なども盛り込みました。

また2つ目のポイントは、今回から新たに、本計画を生物多様性基本法に基づく「生物多様性地域戦略」に当たる「生物多様性ながの県戦略」としても位置付け、長野県版レッドリストの改

訂等の生物多様性の保全に関する具体的な施策を盛り込んだ点です。

最後に3つ目のポイントとして、本計画を親しみやすいものとするため、県民及び事業者等の皆様に環境保全に関する行動を呼びかける「推進標語」を広く公募し、小学生から一般までの計360作品(167名から応募)から、施策の対象分野ごとに選定した点です。

※選定された推進標語は下に記載。

本計画における施策の対象分野は、「持続可能な社会の構築」、「脱炭素社会の構築」、「生物多様性・自然環境の保全と利用」、「水環境の保全」、「大気環境等の保全」及び「循環型社会の形成」の6分野であり、内容は多岐にわたります。環境部だけではなく、関係部局とともに取組を進めます。

本県の豊かな自然と確かな暮らしを未来につなげ、持続可能な社会を実現するためには、県民、事業者、NPO及び行政等のあらゆる主体のパートナーシップと、皆様の環境保全に対する意識の更なる向上及び具体的な行動が重要となります。

引き続き、県の環境保全に向けた取組に対するご理解とご協力をよろしく願います。

おぼえよう

推進
標語

1

暮らし良い
豊かな自然に
全員参加

持続可能な社会の構築

2

ゼロカーボン
少しの意識で
変わる未来

脱炭素社会の構築

3

生き物と
豊かな自然
未来へと

生物多様性・自然環境の
保全と利用

4

きれいな空気と
美味しい水
当りまえにある幸せを
これからも

水環境の保全

5

見えるかな
何万年後
あの星が

大気環境等の保全

6

つくる、つかう
責任意識
高めよう

循環型社会の形成



信州環境カレッジの活動を紹介します

国際ゼロカーボン会議 2023



令和 5 年 2 月、長野県とフィンランドの教育機関が連携し、気候変動や環境問題に関心のある長野県内及び世界中の学生、企業等が、2 日間にわたり、「適応」と「緩和」についてオンラインで意見交換を行いました。参加者は 43 ヶ国 1,037 名。登壇した学生から、参加した思いや今後の活動について寄稿いただきました。

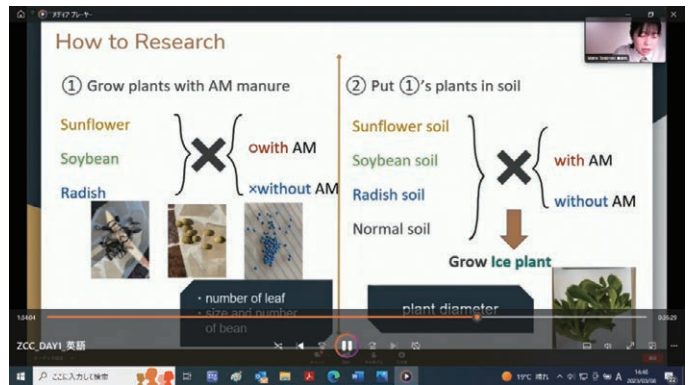
* 学年は発表当時。

★ ^{とどろき} ^{まほ} 轟 真帆 さん 長野県屋代高等学校2年

私は菌根菌を使った家庭菜園について発表しました。マイナーな内容にも関わらず、様々な国の方から質問をいただき、意見交流ができたことは、私にとってかけがえのない経験でした。

また、本会議で出会った方から京都大学の先生をご紹介いただき、アドバイスをいただけることになりました。

この貴重なチャンスを活かして今後も研究を深めていきたいです。



★ ^{きしの} ^{そう} 岸野 奏 さん 信州大学人文学部3年



国際ゼロカーボン会議では、日本・海外の様々なフィールドでそれぞれの視点から脱炭素化への取り組みを知ることができました。私はローカルとグリーンを軸に、インターンシップや大学内での活動を紹介しました。多くの方に、取り組みの目的について共感頂けたことが嬉しかったです。今後は大学でのコンポストの取り組みを市町村に普及していくなど、地域と連繋し資源に新たなグリーンの付加価値を見出していきます。

令和 5 年度「信州環境カレッジ」運営業務を引き続き長野県から受託しました

今年度は、より多くの地域講座、学校講座が登録いただけるよう、説明会の回数を増やしたり、登録方法の動画を作成する他、実際の講座取材して記事を掲載したり、環境学習拠点の情報を掲載するなど、より興味を持っていただけるよう WEB サイトを改修します。

また、信州環境カレッジの主催講座として、海洋ごみ探求カードゲーム「CHANGE FOR THE BLUE」の開催やゼロカーボンに向けたライフスタイルのCMコンテストなども実施します。

なお、講座の募集等については、信州環境カレッジのホームページをご覧ください。



信州つばさプロジェクト

環境先進国(オランダ、スイス)の視察および現地の若者との交流を行う「信州つばさプロジェクト」に参加した高校生3名による報告会が、令和5年2月、くらしふと信州(長野市)で開催されました。



2023/2/5 報告会の集合写真

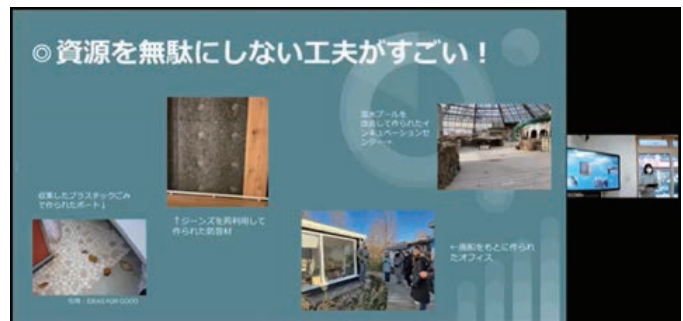


2022/12/15 留学先で地元高校生と交流

★ 茅根 鈴 さん 長野県野沢北高等学校 1年

つばさプロジェクトは私にとっての初めての海外体験だったこともあり、とても学びと刺激の多い1週間でした。環境問題について日本では見られないようなユニークな取り組みもたくさんあり、視野も広がったように感じます。また、英語が決して流暢ではない私でも、伝えよう、理解しよう、という気持ちを持つことで現地の人たちと会話ができ、とても嬉しかったです。

私は、今回の視察を活かして、周りの人たちの環境問題への関心を高めていける活動をしたいと考えています。まだ詳しい内容などは決まっていますが、たとえば、古着マーケットやゴミ拾い大会など、楽しみながら参加できるようなイベントを開くなどして、意識的な面で環境問題の取り組みへのハードルを下げ、身近に感じてもらえたらと思っています。また、私の周りには異文化に触れる機会が少ないと感じたので、さまざまな国籍やバックグラウンドを持つ人たちの交流の場を作っていきたいと考えています。



『マイクロプラスチックストーリー』 映画上映会&ワークショップ

昨年、長野県 NPO センターが開いた子育て世代向けの SDGs 講座を受講したメンバー4人で実行委員会を立ち上げ、「マイクロプラスチックストーリー～ぼくらが作る2050年」の上映会[写真下]を、3月21日に中野市のものがたりふんど舎で、28日に長野市高田の西光寺で行いました。この映画は、ニューヨークの小学5年生がプラスチック汚染問題を学び、解決に向かって活動する2年間を追ったドキュメンタリーです。映画を見て SDGs に関心を持ち、自分たちにできることを気軽に話し合い、行動に移すきっかけになることを願い、準備を進めてまいりました。

当日は、親子連れを中心に多くの方にご来場いただきました。上映会では、画面を食い入るように見る子どもたちの姿が印象的でした。鑑賞後には、「自分事としてとらえなくては、と思いました」「個人の力は小さいかもしれないけれど、まずは自分から動きます」「友だちとプラスチックゼロの日を作りたい」等、たくさんの感想をいただきました。上映会後の「環境カルタ」や「割り箸トング作り」のワークショップ[写真上]、オーガニック食品等のマルシェも賑わいました。今回を機に、他でも上映会の希望があればお手伝いさせていただき、よりよい世界をつくる意識が繋がりが広がっていくとうれしく思います。



(実行委員 両角 久仁子)

脱炭素チャレンジカップ企業団体賞「セブン-イレブン記念財団最優秀地域活性化賞」受賞
サクサク
長野県佐久平総合技術高等学校「佐久酒粕プロジェクト」

私たち食品加工部は、食品ロスの削減を目的に酒粕の需要拡大に向けたプロジェクト活動に取り組んでいる部活動で、活動は今年で3年目となりました。私たちの活動をより多くの人に周知し、少しでも地域の課題解決と地域活性化に貢献したいという思いで、日々活動に取り組んでいます。

長野県佐久平総合技術高等学校が位置する長野県佐久市は、市内だけで11の蔵元を有するほど日本酒造りが盛んな地域です。酒粕は日本酒造りの際に得られる副産物ですが、食生活の変化などで需要が低迷し、近年家畜の飼料になるか廃棄処分してしまう酒粕が増えてきています。本校でも地元酒造と連携して日本酒造りに取り組んでいますが、その日本酒造りの際に約300kgの廃棄酒粕が出てしまったことに「つくる責任つかう責任」を痛感し、食品ロスの削減や地域活性化につなげようと「佐久酒粕（サクサク）プロジェクト」を立ち上げました。

酒粕は日本酒造りの際に得られるいわば“残りカス”ですが、食物繊維やビタミンB群が豊富に含まれる優れた食品です。そこで、手軽に食べられる食品にして「カス」を「価値」に変えようと様々な食品の試作を行いました。

地元の洋菓子店、パン屋、ラーメン店などの協力を得ながら、酒粕を使った食パンやメロンパン、クッキー、ラーメンなどを開発・商品化して、廃棄酒粕に新たな価値を与えるアップサイクルに取り組みました。酒粕を使ったオリジナルラーメン「サクサクラーメン」は、令和4年10月2・3日に佐久市で開催された地域イベント「第3回佐久ラーメン甲子園」で提供したところ、来場した多くの人に好評で2日間で500食以上を売り上げ、地域を盛り上げる商品となりました。また、同イベントの優勝ラーメンにも輝き、地元ラーメン店で



地元酒造と日本酒造り



酒粕、こんなに捨てちゃうの？



サクサクラーメン
佐久ラーメン甲子園優勝！



酒粕メロンパン&リーフレット



おいしい酒粕メロンパン
いかがですか？

メニュー化もしていただきました。商品化したクッキーやパンも、学校の購買や各店舗、イベント等で販売しており、地域の方々に定着し、愛される商品となっています。

さらに、地域の課題となっている酒粕に多くの魅力があることを広く知ってもらおうと、情報発信にも注力しています。リーフレットの作成・配布や「NAGANO SDGs PROJECT」への参加、地元商店街が主催する子ども食堂での酒粕商品無償配布などを実施しています。

これらの活動を通して、地元食材を見直す動きが地域で広がっています。「来年からは酒粕を100kg仕入れたい！」という声が寄せられ、独自に酒粕を使った商品開発に取り組むお店も現れるようになりました。地域の方々が、酒粕の魅力を再発見し、少しずつ酒粕ファンが増えてきていることにとってもやりがいを感じています。

また、幅広い世代に酒粕を通して地域資源の魅力や持続可能な社会について考えてもらおうと、新たな活動として学校給食との連携企画も始めました。その第一弾として、今年の3月には私たちが考案した献立「酒粕からあげ」を地元小・中学校の給食で提供していただきました。併せて、小・中学生へ活動紹介や酒粕の魅力の発信も行なっています。

「何を食べるか」の選択で、持続可能な社会を創ることができます。一人ひとりの一歩は小さくても、100人が一歩を踏み出せば持続可能な社会に大きく近づくことができます。これからもたくさんの人を巻き込みながら持続可能な社会への実現に挑戦していきたいと思えます。

脱炭素チャレンジカップ2023にて「セブン・イレブン記念財団最優秀地域活性化賞」に選出していただいたことを励みに、今後も酒粕の価値を探究し続けます。未来へ佐久咲け！（食品加工部部長 今和泉そら）



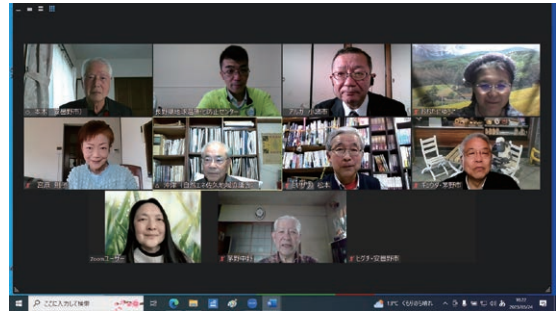
県推進員さんが小中学生向けの講座をつくりました



「2050 信州ゼロカーボン」の実現に向け、県推進員有志の皆様が取り組んできた「小中学生向け講座づくり」のオンライン会議が3月24日に開かれ[写真]、学校などに提供可能な講座プランを発表しました。

初めに、小学校教諭でもある有賀宏道推進員が、「講義型」・工作などの「体験型」の授業の進め方について、学校からの視点でノウハウを共有。続いて3つのグループから、宮澤信推進員、宮原則子推進員、沖津博人推進員により、体験や、誇れる地元環境の学び、実験を交えた講座プランが発表されました(☞下表参照)。

講座の申込み、問い合わせは、当センター(☎026-237-6625)へ。



会議の締めくくりに Zoom 画面で記念撮影

講座名	概要	対象
地球環境問題・地球温暖化問題と自然エネルギーを学ぶ	座学および自然エネルギー等の体験(デジタル地球儀「スフィア」、ロケットストーブ、みつろうキャンドル&竹のキャンドルフードなど)。	小学5・6年生 中学生
ゼロカーボンを目指して見直そう 私たちの暮らし!	気候変動による県内の現状を知り、自分たちにできることは何かを、エアロバイク発電機やソーラーカーの体験などを通じて考える。	小学5・6年生
地球温暖化が進んでいる! どんなこと? どうすればいいの?	前編は、地球温暖化の理解と後編への宿題。後編は、どのように考え、行動すべきかの手がかりとする話し合いなど。	小学5・6年生



ゼロカーボンに向けて私たちにできること

エコアクション 21 審査員 宇野 親治 [小諸市]



「ゼロカーボン」「カーボンニュートラル」「脱炭素社会」等とタイトル・アドバルーンは上がりますが、一般の方は何をすればいいのか、何のために省エネが必要なのか、なかなか理解されていません。他人事ではなく自分事として捉えていただくために、具体的な啓発がもっと必要だと思います。

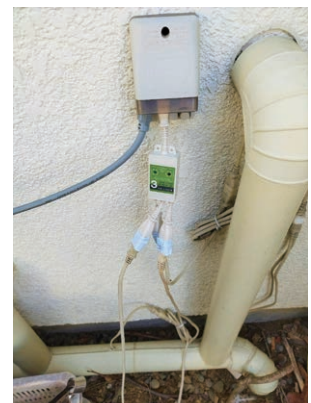
皆さん、最近の電気料金の高騰をご存じですか?

銀行などの自動振替で、電力会社からのお知らせを見ていない方が多いようです。私は10年以上前から「環境家計簿」をつけていますが、33%から40%の値上がりで、主な原因は燃料費調整額です。再エネ発電賦課金も値上がりしています。ぜひご自宅のエネルギー消費量、消費金額を把握してください。そこがスタートです。

特に皆さんにアドバイスしているのは凍結防止ヒーターです。旧型のセンサーの作動温度は5℃でON、10℃でOFF、新型は0℃でON、5℃でOFFになります。凍結しないからと安心しないで、電気を無駄に捨てていないか確認してください。メーカーに聞けば教えてくれます。ぜひ調べて下さい。ちなみに私は10年以上前のものを使ってきましたが、1月にホームセンターで新型を購入し、交換しました。[写真]

知識だけでなく出来ることを実践するのが、ゼロカーボンへの近道です。

旧型 新型 設置状況





SBC こどもフェスタ 2023

2023/3/19



新型コロナの影響で、4年ぶりに開催された「SBC こどもフェスタ」。天候にも恵まれたことから、メイン会場の「長野市トイゴ」には大勢の親子連れが訪れていました。当協会では、「82 プラザ長野」を会場に、環境省の「あまとみ*トレイル」写真展とコラボする形で「触れる地球体験会」を実施しました。終日、親子連れが、デジタル地球儀「触れる地球」が映し出す様々なコンテンツや、CO₂の増加に伴う地球の平均気温上昇シミュレーションの映像を、興味深く観察していました。特に子どもたちは、実際に地球儀に触って様々な方向に回転させ、北極や南極、大陸や海洋、また世界の国々が、普段見慣れた地球儀とは全く変わった形で映し出されることに驚いていました。「地球、おもしろかったね!」と喜んで帰る子どももたくさんおり、地球について考える良い機会になったと思います。また、同時開催の「あまとみトレイル」の写真展も、トレッキングに興味のある親子連れが熱心に鑑賞していました。

*妙高戸隠連山国立公園や周辺を代表する山「雨飾」「斑尾」「戸隠」「妙高」の名称から頭文字を1文字ずつとっています。



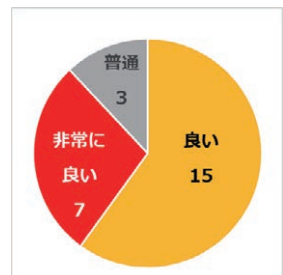
小学校で「うんこドリル」ご活用いただきました!



『うんこドリル 地球温暖化 長野県編』を、授業等で活用いただいた小学校にアンケートをお願いし、21校(南信8、中信6、北信5、東信2)から25件の回答がありました。活用した学年は、4年生が最も多く12校、2年生・3年生が各7校、1年生が1校でした(複数回答)。活用した時間は、「総合的な学習の時間」が最も多く9校、次いで「家庭学習」が7校、「読書の時間・図書館」が6校、「社会科」が3校、「生活科」「学級」が各2校、「理科」が1校でした(複数回答)。「先生から見た本ドリルについて」では、「非常に良い」「良い」合わせて88%と、高評価をいただきました。

先生
の声

- 少々難しい話題でも、時々出てくる「うんこ」というワードに惹かれて楽しんで取り組むことができました。早速家庭にも連絡し、最後のページの「エコ名人チェック」に取り組むようお願いしました。有名な『うんこドリル』が「長野県編」だという点が、親近感を感じながら学習することにつながりました。 ● まず笑顔になりました☺
- 児童の食い付きが大変よかったです。クイズ形式でやると、考える時間があり、盛り上がる授業になりました。
- 問題によって、複数正解がありなのか、ハッキリしないような…。



児童
の声

- 牛のゲップまで地球を暑くしているとは思わなかったし、御神渡りが起きなくなったことを初めて知った。
- 地球が暑くならないために、電気などを節約することも、家で今日からしてみようと思った。
- お父さん、お母さん、お姉ちゃん、妹にも、このドリルで学んだことを教えたいと思った。

事務局
だより

4月1日付けで長野県センター職員の人事異動がありました。

本山聖一 長野県庁へ帰任 河内良平 県センター主任に着任(県より出向)

【発行元】 〒380-0835 長野市新田町 1513-2 (82 プラザ長野)

□「エコシン」は「エコ信州」の略称です
2023年5月5日発行

● 一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL:(026)237-6620 FAX:(026)238-9780 E-mail:nace@janis.or.jp https://nace.main.jp/

● 長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6625 FAX:(026)238-9780 E-mail:nccca@dia.janis.or.jp https://nccca.or.jp/

● 長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6681 FAX:(026)237-6690 E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp https://www.eco-mame.net/

